

耐震診断結果一覧表

■学校(小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校)

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	信州大学教育学 部附属松本中学 校(普通教室棟・ 特別教室棟)	松本市桐 1-3-1	学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定 める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.36$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.87$	—	—	耐震改修済み
2	松本市立丸ノ内 中学校 1 棟 (特別・普通教 室)	松本市宮 渕 3-6- 1	学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定 める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.28$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.79$	—	—	耐震改修済み

■病院、診療所

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	信州大学医学部 附属病院(南中 央診療棟)	松本市旭 3-1-1	病院	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定 める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.38$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.40$	—	—	耐震改修済み

■百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	井上百貨店本店	松本市深 志 2-3-1	百貨店	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」 に定める「第 3 次診断法」(1997 年版)(充腹 形)	$I_s/I_{so}=1.01$ $C_{Tu} \cdot S_D=0.49$	—	—	耐震改修済み
2	MKKビル	松本市深 志 1-3- 11	店舗 ホテル	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」 に定める「第 2 次診断法」(2009 年版)(充腹 形)	$I_s/I_{so} = 1.17$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.56$	—	—	耐震性あり
3	パルコ松本店	松本市 中央 1- 10-30	店舗	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄 筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定 める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.0$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.61$	—	—	耐震改修済み

■ホテル、旅館

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	ホテル翔峰 西館	松本市里 山 辺 527	ホテル	一般財団法人日本建築防災協会による「既存 鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基 準」に定める「第 2 次診断法」(2009 年版)	$I_s/I_{so} = 1.03$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.48$	—	—	耐震改修済み
2	赤羽ビル(松本 東急 ReI ホテル)	松本市深 志 1-3-21	ホテル	一般財団法人日本建築防災協会による「既存 鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基 準」に定める「第 3 次診断法」(2009 年版)(充 腹形)	$I_s/I_{so} = 1.01$ $C_{Tu} \cdot S_D = 0.29$	—	—	耐震改修済み

■駐車場(自動車車庫その他の自動車又は自転車の停留又は駐車のための施設)

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	日本通運駐車場ビル	松本市深志 1-3-18	駐車場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011 年版)	$I_s = 0.85$ $q = 1.03$	－	－	耐震改修済み

■保健所、税務署その他これらに類する公益上必要な建築物

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	松本市役所本庁舎	松本市丸の内 3-7	公益施設	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.26$ $C_{tu} \cdot S_D = 0.77$	－	－	耐震改修済み
2	松本市役所東庁舎	松本市丸の内 3-7	公益施設	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」(2001 年版)	$I_s/I_{so} = 1.26$ $C_{tu} \cdot S_D = 0.77$	－	－	耐震改修済み

■危険物の貯蔵場又は処理場の用途に供する建築物

No.	建築物の名称	建築物 の位置	建築物 の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部 分の地震に対する安 全性の評価の結果	耐震改修等 の予定		備考
						内容	実施時期	
1	NTT大名町ビル第2棟	松本市大手 3-3-9	事務室 機械室	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」(1983 年版)	$I_s/I_{so} = 1.01$	－	－	耐震改修済み

附票
 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996 年版、2011 年版)		$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」及び「第 3 次診断法」(2001 年版)		$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」及び「第 3 次診断法」(1983 年版)		$I_s/I_{so} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」及び「第 3 次診断法」(1997 年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」及び「第 3 次診断法」(2009 年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_T \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_T \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_T \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_T \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

I：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

(※)『構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果』の欄に記載の、 I_s/I_{so} に用いる I_{so} は、 U (用途指標)＝1.0 として算定した。